

# 男性が受けるDV被害の現状

## 【事例1】

妻は子どもが生まれた頃からイライラし始め、機嫌が悪くなると私に物を投げつけます。先日、私がチャイルドシートを買ってきたのですが、彼女はその安全性のデータを取りよせろと言いました。安全基準に合致した製品だと言っても納得しません。暫く言い争っていたら、彼女が興奮してそのチャイルドシートを投げつけ、私は肋骨にひびが入りました。彼女は謝りもせず、逆に私のことを男として未熟な人間だと責めます。なんとか耐えています。毎日がこの調子です。もしんどいです。

## 【事例2】

私は妻から殴る蹴るの暴力を頻繁に受けていますが、4歳の娘のために離婚は

したくありません。妻の姉は父親から虐待を受けていて、自分はあるようになりたくないと言っています。だから、努力したと許せないと。子どもが生まれたとき、私は会社から早く帰り、風呂に入れて食事の世話をすることを約束させられました。でもときどき仕事が忙しくて遅れることがあります。すると彼女は逆上して私をだらしのない人間だとひっぱたきます。先日、彼女の暴力があまりに激しいので家を飛び出しネットカフェで一夜を過ごしました。でも娘のことが心配で翌日家に遊びにきていたので無事に家の中に入ることができました。彼女は他人に対しては完璧な良妻賢母を演じます。もう私の神経はズタズタです。

## 【事例3】

私は3年前に妻を亡くしたのですが、知人の紹介で再婚しました。私には10才の息子がいます。現在の妻は初婚で、いくつかの国家資格をもつ優秀なひとです。優しい印象があったので結婚しました。ところが結婚してまもなく、私が会社でもらったバレンタインのギリチョコを食べていたら、突然口の中に手をつこまれ取り出されました。また息子が妻になつかないのは私が前妻に思いを寄せているからだと言い、私はコップを投げられたり、裏切り者と叫ばれ殴られたりします。私が土下座をして謝罪をしないと収まりません。先日、息子も土下座をさせられたことを知りました。妻の言うことをきかないとひっぱたくと脅かされたそうです。それを聞いて私はもう彼女とは住めないと思い、今、息子と家を出



よしおか  
吉岡

しゅんすけ  
俊介

たところですか。どうしたら良いのか悩んでいます。

#### 【事例4】

私は会社員で妻と幼い子どもがいます。妻の実家は農家で私はその近くに住んでいます。農作業シーズンには親戚総出で手伝うのですが、私は腰が悪くて十分作業ができません。仕事で疲れていた家で休んでいたら、妻とその母親が現れ「嫁に仕事をさせておいてよく平気でいられるな。情けない！」と怒鳴られ、母親に小突かれ、妻にひっぱたかれました。確かに男として情けない有様です。親しい友人から、それはDVだと言われましたが、女性に殴られたぐらい大したことありません。警察沙汰にするなどもってのほか。もともと自分が頑張らないといけません、このような暮らしに疲れました。

これらの事例は、実際に男性の悩み相談に寄せられた内容に基づいていますが、登場する人物や状況には脚色を加えています。その他、夫の稼ぎが悪いので裕福な生活ができないというセレブ願望の妻から家を追い出され、車の中で一夜を過ごした事例、口喧嘩がエスカレートし、

妻の感情が爆発してナイフで追いまわされるという命に関わるような事例など、様々なケースがあります。

こうした事例から、ごく通常の日常生活が暴力に発展していくことの危うさ、そしてDVが身近な問題であることがよく分かります。男性被害者からは往々にして次のような声を聞きます。

- ①妻に殴られたぐらいで助けを求めるような大袈裟なことはしたくない。
- ②警察沙汰にして妻を犯罪者にしたくない。
- ③自分がいなければ妻や子どもは生活ができなくなり、逃げるわけにいかない。
- ④妻を怒らせたのは自分にも責任がある。
- ⑤自分がDVの被害を受けているという認識は全くない。

これらの声から、その背景に「男らしさの縛り」が見えてきます。「男は黙って」「一家の大黒柱」という旧来の男らしさの鎧を固く身につけたひとほど、自身の傷つきや弱い部分に目を向けようとせず我慢する。また周りも強い男性像を当たり前とし、男らしく家庭を支えることを強制する。彼らの我慢が限界を超えると、それはうつやPTSD<sup>\*</sup>に発展していきます。また逆に妻に対する報復に転じるとDV加害者になります。

このようにして見ていくと、日頃の夫婦の

コミュニケーションのあり方が、互いがDV加害者にならないために重要なかが分かります。そして夫婦間で解決できなければ、我慢せずに外部に相談することが大切です。

男性の場合は一時避難施設が殆どないために、少しでも妻と距離をとる他の手立てはないか、家の中でどのように過ごしたら少しでも楽になれるかなど相談窓口で一緒に考え、ときには警察への連絡を検討します。そして相談をして話を聞いてもらうことが本人の孤立感を和らげ、次の行動に向けた考えを整理します。実際、本音や弱音を吐くことで「随分気持ち楽になりました」と述べる男性たちは多くいます。

男性が被害を受けるケースは年々目立ってきています。女性被害者向けの各種施策が推進される一方で、男性被害者に関わる対策が取り残されているのが実状であり、今後の課題として取り組むことが求められます。この社会に生きる誰もが性の区別なく、加害者にもなり、被害者にもなり得ます。DVの問題に対する理解を一層深め、より有効な対策を検討する上でも、女性、男性双方の視点から見えていくことが大切です。

【シニア産業カウンセラー。個人カウンセリングループ「オフィスよしおか」開業。】

※PTSD…Posttraumatic stress disorder

脅威的あるいは破局的な出来事を経験したのち、長く続く心身の病的反応で、その出来事を再体験（フラッシュバック）してしまうこと。